

お知らせ

中国・四国地方初、古代の獸脚鑄型を確認しました

赤磐市では、令和元～4年度にかけて齋富・南方地区ほ場整備事業に伴う齋富遺跡と中池南遺跡の発掘調査を実施し、これまで出土品等の整理作業を進めてきました。

このたび、令和4年度に調査を行った中池南遺跡出土の土製品が専門家の鑑定により、古代の獸脚（付容器）の鑄型であることが判明しました。

獸脚鑄型の確認は中国・四国地方初となります。

なお、令和7年9月12日から10月17日まで赤磐市山陽郷土資料館において獸脚鑄型の特別展示を行います。

1 獸脚鑄型について

(1) 獸脚鑄型

金属製容器（鉄製と推測）の羽釜や鍋の脚

残存長 20.0cm、最大幅 7.7cm、最大厚さ 6.9 cmの土製鑄型

断面U字形で3本の脚爪表現

(2) 時期

古代（奈良～平安時代）

(3) 出土地点

中池南遺跡（赤磐市齋富地内）の溝

(4) 出土年度

令和4年度

2 獸脚鑄型確認の意義

縄文時代以来、人々は鉢などの土製の容器を使用してきました。古代に入ると、一部で鉄製の容器が鑄造によって作られるようになりました。日本列島における最古の鉄鑄造遺構は、飛鳥時代に奈良県川原寺跡で確認されています。その後、鉄鑄造技術は奈良時代後半～平安時代に東北南部・関東・北陸等に広がり、製品は寺院仏具をはじめ容器として供給されます。この時期の鉄鑄造は、製鉄操業を実施している遺跡（工房）に鑄造工人が

入り込んで作業を行う形が多く認められます。

古代の吉備は製鉄が盛んな地域で、鍛冶関係の資料も多く見つっていますが、これまで鉄鑄造関連遺跡・遺物の発見がありませんでした。中池南遺跡に近い斎富遺跡は古墳時代終わり頃からの製鉄関連遺跡で鍛冶も行っていますが、今回の発見は製鉄関連遺跡付近で鉄鑄造も行っていただ可能性を示唆するものとなりました。

ただし、今回確認した獣脚鑄型以外の鉄鑄造関連の遺物はほかに見られず、どの程度の規模で鑄造が行われていたかは今後の課題です。また、東日本で出土する獣脚鑄型の特徴と一致しないところもあり、鑄造の性格自体が異なる可能性があります。

3 特別展示

- (1) 会場 赤磐市山陽郷土資料館（赤磐市下市337）
- (2) 期間 令和7年9月12日（金）～10月17日（金）
9:00～17:00（入館は16:30まで）
- (3) 休館日 月曜日、祝祭日



獣脚鑄型（正面）



獣脚鑄型（斜めから）



獣脚鋳型の爪先表現（拡大）

獣脚：羽釜や鍋等の容器にとりつけられた、獣（獅子）をかたどったとされる脚部分。須恵器の壺などにも認められ、3本1組で脚となる。容器本体と接する部分に獣の顔、先端に獣の爪先が表現されるものもある。

鋳型：溶かした金属を注入して器などを形作る型。製品と同じ形に作った原型で型抜きするので、鋳型は製品の形や文様が反転した状態となる。

鋳造：溶かした金属を鋳型に注ぎ、凝固させて器などを^{ぎょうこ}作る方法。

